

4. 古墳の魅力発信事業に係る原稿作成業務

京都府立大学文学部考古学研究室

1. 経緯と概要

本事業は、古墳の魅力を発信することから、その周遊を促し、地域の活性化を図ろうとするもので、関西広域連合が実施する事業である。その窓口である京都府文化政策室から依頼を受け、事業委託の契約をおこなったうえで、文学部歴史学科考古学研究室の教員（菱田哲郎・諫早直人）・学生（井川瑞季・守田悠・吉永健人・松田篤）が中心になって取り組むこととした。委託契約は2022年8月に結び、2023年2月までの期間で、費用は44万円（税別）である。

具体的には、関西広域連合を構成する滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県・鳥取県・徳島県・京都市・大阪市・堺市・神戸市から代表的な古墳を抽出し、テーマに沿って解説を加えるとともに、それらを周遊するルートを策定し、パンフレットにまとめるというものである。テーマは以下の通り7つを設定した。

1. 謎多き邪馬台国の卑弥呼と古墳
2. 古代の海の道～王権の成立と日本海航路
3. 威風堂々たる巨大古墳～瀬戸内海の交易の道
4. 治水と開発の大王～仁徳天皇
5. 多難な時代の大王～継体天皇
6. 巨大石室墳の世界～活躍する古代豪族たち
7. 大陸文化の影響～精緻な美

そのうえで、各テーマで取り上げた古墳を地域ごとにまとめて周遊するコースを作り、実際に足を運んで見所などをパンフレットにまとめることとした。個別の古墳の説明や周遊コース案、その体験記は学生たちが主体となって作成した。（菱田哲郎）

2. ルートの策定

ルートの策定にあたっては、京都府文化政策室の西崎友美子氏・村林愛理氏らと協議を重ね、いずれも電車やバスなどの公共交通機関を利用して訪問できる古墳や博物館、観光地等をピックアップし1日でおさまる行程を組んだ。テーマで取り上げた古墳や遺跡を中心に、古墳をよく知らない人でも楽しめて実際に活用してもらえるコースを目指した。行程を組むにあたっては交通機関の時刻も考慮し、古墳や博物館を初めて訪れる人の施設見学ペースを想定して各施設の滞在時間を配分するなど試行錯誤を重ねた。

3. 現地での取材

8月から10月にかけて、作成した9つのコースについて実際に現地へ赴き作成した行程ど

おりに取材をおこなった。1日の行程に無理が生じないかといった確認や、昼食や軽食を掲載する店舗への取材を主とし、飲食店への取材アポイントメントも事前にとったうえで現地へ向かった。見学時間をはじめ改善点も散見したが、いずれも大きな問題は生じることなく9日間の行程を終えた。参加した学生も初めて訪問する古墳や博物館が多く、取材しながら自身の学びを深めることができたといへん充実したものとなった。

4. 作成コース

今回作成した9コースについて紹介する。

①奈良編

黒塚古墳・黒塚古墳展示館→橿原考古学研究所附属博物館→ひだまりカフェあすか（昼食）
→高松塚古墳・高松塚壁画館→石舞台古墳→キトラ古墳・キトラ古墳壁画体験館四神の館
古代奈良の古墳を巡る古墳満喫コース。橿原考古学研究所附属博物館は電車の時刻を踏まえ見学時間を設定したが、展示数が多く見学時間が不足した。レンタサイクルを利用した明日香巡りは、目的地に向かいながら他の史跡も巡る楽しめるコースとなった。

②大阪編

法円坂遺跡・大阪歴史博物館→仁徳天皇陵古墳拝所・百舌鳥古墳群デジタルセンター
→こぶん前 café IROHA（昼食）→堺市博物館→堺市茶室伸庵（呈茶）→履中天皇陵古墳
仁徳天皇関連遺跡を中心に世界遺産百舌鳥古墳群の巨大古墳を巡るコース。堺市役所の展望ロビーからは仁徳天皇陵古墳をはじめとする古墳を楽しむことができるためコースに組み込む予定であったが、時間などの制約で組み込むことができなかった。

③京都・大阪編

蛇塚古墳→広隆寺→恵解山古墳→喫茶去ゆり（昼食）→今城塚古墳→今城塚古代歴史館
→史跡新池ハニワ工場公園
太秦の地に拠点をついた秦氏に関連する古墳と寺院を巡り、時代を遡って前方後円墳と埴輪生産遺跡を巡るコース。視覚的に遺跡間や遺物のつながりがわかる面白さに気付いてほしいことを意図した。電車やバスでの移動は多いが、見ごたえのあるコースとなった。（井川瑞季）

④兵庫編

兵庫県立考古博物館→垂水漁港食堂（昼食）→五色塚古墳・小壺古墳→橋の科学館
→舞子海上プロムナード→孫文記念館
明石海峡周辺のスポットを巡るコース。兵庫県立考古学博物館の復元された古代船や、五色塚古墳など、古代の「海」を意識したコースとなった。五色塚古墳と明石海峡大橋という、古代・現代それぞれの技術の結晶と、海へのまなざしを感じることができる。

⑤和歌山編

紀伊風土記の丘・岩橋千塚古墳群→和歌山電鐵貴志駅・たまカフェ（昼食）
→和歌山電鐵伊太祈曽駅→伊太祈曽神社→和歌山市立博物館
当地域に拠点を置いた紀氏の足跡をたどるコース。実際に横穴式石室に入ることのできる岩橋千塚古墳群で古墳を堪能できるだけでなく、和歌山電鐵の電車や駅で移動中もコースを楽しむことができる。電車やバスの時間に制約される部分があり、地域内での遺跡巡りにおける移

動手段の難しさを痛感した。（吉永健人）

⑥滋賀編

鴨稲荷山古墳・高島歴史民俗博物館→近江神宮→近江牛ダイニング OKAKI 大津店（昼食）
→大岩山古墳群→銅鐸博物館→ラ・コリーナ近江八幡

鴨稲荷山古墳から大岩山古墳群へと琵琶湖北湖西岸から南湖東岸を移動するコース。電車移動という制約もあり訪問できる古墳が限られてしまったが、県内にはこれ以外にも魅力的な古墳、さらには寺社仏閣や城郭といった文化財が多く残っている。このコースが滋賀県の魅力を知るきっかけになれば幸いである。

⑦京都北部編

天橋立・天橋立ビューランド→網野銚子山古墳→とり松（昼食）
→神明山古墳・丹後古代の里資料館

日本三景にも数えられる天橋立をスタートとし、日本海三大古墳と称される網野銚子山古墳、神明山古墳を巡るコース。それぞれのスポットから見られる日本海は絶景であり、寺社仏閣だけでは京都の魅力を感じてもらいたい。（松田篤）

⑧徳島編

萩原2号墓→レキシルとくしま→郷土料理潮風（昼食）→
→エスカヒル・鳴門（見学・軽食）→大塚国際美術館

古墳のスポット数は少ないが、メインとなる萩原2号墓への道中も多くの古墳を見ることができる。京都・大阪府コース同様、遺跡と展示施設の遺物をリンクさせることを意識した。古墳へのアクセスなど交通機関の制約に苦戦したが、鳴門海峡の景色や美術館を取り入れ魅力あるコースを目指した。

⑨鳥取編

因幡万葉歴史館→梶山古墳、周辺散策（岡益の石堂、長通寺など）→パラキート（昼食）
→砂の美術館→鳥取砂丘→ArtPlace すなば珈琲（軽食）

古代因幡の中心地と砂丘を中心にしたコースである。時間の制約からテーマで挙げられた古墳に含まれる北山古墳はルートに組み込むことができなかった。梶山古墳の現地では装飾のある石室内部が見学できないため、遺構の保存と活用を両立させる難しさを感じた。（守田悠）

5. パンフレットの作成

パンフレットの構成は、主に上述のテーマ解説とそれに関連する古墳の解説、実際に取材した9つの周遊コースの紹介からなる。加えて、学生からのメッセージや学生オススメの古墳の楽しみ方といった小コーナーも設けた。作成に至っては、考古学に興味がある人だけでなく、古墳を初めて訪れる人にも古墳に興味を持ってもらえるよう、また、作成したコースを活用してもらえるよう各訪問場所の魅力を詰め込んだパンフレットを目指した。考古学の専門用語を多用することは可能な限り避け、理解しやすい解説となるよう校正を重ねた。

6. おわりに

今回の事業に携ったことで多くの貴重な経験をすることができた。移動手段をはじめとす

る様々な制約の中で、一般の人に向けたモデルコースを作成することの難しさを身をもって学んだ。また、文化財の保護と活用を両立することの大変さと、それに対して両立しようと活動する人々の姿を目の当たりにするなど、現地でしか得られない知見も数多くあった。この経験を今後の文化財保護や活用を考えるうえで生かしていきたい。(井川)

謝辞

今回の原稿作成にあたっては、取材させていただいた飲食店、訪問先の各機関に大変お世話になりました。ここに記し感謝申し上げます。



写真1 五色塚古墳(兵庫県)取材風景



写真2 大岩山古墳群(滋賀県)取材風景



写真3 ArtPlace すなば珈琲(鳥取県)取材風景



写真4 石舞台古墳(奈良県)取材風景



図1 パンフレット『関西古墳巡り GUIDE BOOK』(一部)

編集後記

フィールド集報は、刊行当初より Adobe 社の InDesign を利用して組版作業を手作りでおこなっている。InDesign の取り扱いは、歴史学科文化遺産学コースのうち、考古・建築・地理の実習メニューに含まれ、本書の一部については、そうした実習のなかで学生が組んだものとなっている。

今年度のフィールド調査においても、各地で多くの方からのご理解とご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。歴史や文化遺産にかかる調査は一人では決して成しえないということを、今後も常に意識するように努めたい。(う)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第9号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2023年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
